

## ExTEND2005 野生生物の生物学的知見研究について

環境安全課

## 1. 基本的な考え方

野生生物における異変の把握は、内分泌かく乱化学物質問題のみならず生態系を視野においた化学物質対策の原点

- ・ 野生生物の生殖異常と化学物質暴露との関連 内分泌かく乱作用が注視
- ・ 生態系への化学物質の影響 実験での検証は困難
- ・ 国内での継続的な野生生物の観察が前提

生物個体（群）での変化（前兆）を、時間軸をもって捉える

観察された変化（前兆）が正常か異常（異変）かの判断

- a. 生物種についての基礎生物学的知見が必要
- b. 生物種間の関わり合いについても考慮

異変の原因解析

- a. 生息環境における環境因子の検討  
（化学物質濃度、放射線、日照時間、温度、人為的变化）
- b. 生物側の要因（感受性の差異）の検討

## 2. 具体的研究課題

a. b.

- ・ 魚類における性転換を研究し、定常状態で起こっている変化について知見を集積する。

課題3. 雌雄同体性魚類の性の可塑性と社会構造に関する研究

b.

- ・ 湖沼生態系を例として、魚、プランクトン群集、底生生物群集との関わりについて解析する。

課題4. 魚や水草の放流や移入による湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明

a.

- ・経年的変化（個体数や形態変化）が知られている生物種について、現在まで蓄積されているデータを基に、変化の経緯と変化の原因について解析し、今後、新たに変化が報告された際に、調査すべき項目を抽出する。

- ・野生生物体内に蓄積している化学物質濃度を測定する。

課題 1 .	魚介類におけるダイオキシン類蓄積量の比較
--------	----------------------

課題 2 .	POPs 及び候補物質による日韓沿岸及び近海の野生生物汚染の実態解明
--------	------------------------------------